

第1学年C組 音楽科学習指導案

授業者 柳下 康明

1 題材名 曲想と音楽の構造との関わりを理解して、音楽の特徴を味わって聴こう（鑑賞）

2 題材について

(1) 生徒の実態から

生徒は、音楽を表現することや鑑賞することなどの様々な活動に興味をもっている。そして、それらに必要な技能や知識等を得たいと考えており、授業に対して真面目に取り組んでいる。また、音楽表現をすることに対して積極的で、一人一人の生徒が主体的に活動に取り組むことができている。また、曲想などを感受することは得意であり、多くの生徒が自分の言葉で語ることができる。しかし、その根拠となる音楽の特徴を知覚することが課題となっている。例えば、「リズムが速くなる」音の重なりが音量に関わる場所を、「激しくなった」のように音楽を形づくっている要素の働きを正しく理解し、知覚することが求められている。音楽の学習で根本をなす、知覚・感受を支えとして音楽を捉えることに重点をおいて題材を設定する。

本時の表現分野に関わる内容について学級への質問紙調査を実施した。「知識」に関する項目については『曲想を生み出す、音楽を形づくっている要素の働きを理解している』では35%が「わからない」と回答しており、3年間の音楽の学びの土台作りが必要である。『曲想と音楽の構造(音楽を形づくっている要素、要素同士の関わり)との関わりを理解している』では45%が「わからない」と回答しており、知識を得たり生かしたりしながら、生徒自身の視点で捉えていく過程が必要である。その一方、『音楽の雰囲気や表情、味わいなどの曲想を感じ取っている』では94%が「感じ取っている」としている。このことから、音楽の構造と自己のイメージや感情との関わりを、音楽活動を通して生徒自身が実感しながら理解する場面を作りたい。「思考力、判断力、表現力等」に関する項目については『音楽のよさについて自分なりに考え、味わって聴いている』では肯定的な評価が95%となっている。しかし、先ほどの知識に関する設問の『曲想と音楽の構造(音楽を形づくっている要素、要素同士の関わり)との関わりを理解している』の結果から考えると、根拠となる曲想と音楽の構造との関わりなどの、知識に関する内容が欠けていると考えられ、知識に関する学習と一体的に行い、知覚したことと感受したこととの関わりについて深く考えさせていく必要があると言える。「学びに向かう力、人間性等」に関する項目については、『主体的に取り組むことができる』では「よくできた」「できた」が96%であり、進んで学ぼうとする姿がみられる。また、『仲間と協働的に取り組むことができる』でも肯定的が83%であり、まだ学級内での関わりが薄い中、周り関わって学ぼうとする様子が見られている。

B鑑賞(1)アの(ア)・イの(ア)に即して進めていく。加えて、[共通事項](1)ア(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころになる主な音楽を形づくっている要素:「リズム」、「旋律」、「強弱」)を指導する。

(2) 本校の研究内容と本題材の関連について

【手立て1】:「困難に向き合い、試行錯誤するなどの挑戦する学びの場面の設定」

本題材は3年間の音楽の学びの基盤となる内容であり、最初の困難と向き合う場面と言える。タブレット端末で自身が聴きたいところを繰り返し聴いたり、知覚・感受したことを音楽を聴きながら他者に説明したりする学習を、挑戦する学びの場面とする。音楽の構造と自己のイメージや感情との関わりを、

音楽活動を通して生徒自身が実感しながら理解し、音楽のよさを味わって聴く姿を目指していく。

【手立て2】：「教師や仲間との協働的な学びの充実の手立て」

本題材では、個で知覚・感受したこととの関わりについて考え、生徒間で共有し、また他者の考えに触れることにより個の気づきや考えが深まる指導を目指す。このことで、他者の考えを尊重する態度と多様な価値判断に触れる機会としたい。また、生徒同士をつなぎ合うことで、学級全員がねらいに向けて学び「一人残らず学ぶ教室」を創っていきたいと考える。本時においては、ペア学習を中心に学びを進めていく。本教材では、「この曲のここが好き」という自分の視点をもって聴かせることで、他者との関わりの中から、自分の価値意識を再確認させたい。「学び合い学習」を有効に活用し、グループや全体で発表し合う活動が、個別最適な学びと協働的な学びとして生徒一人一人の学習の深まりにつなげたい。

3 題材の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や曲の背景との関わりについて理解する。 〈知識〉
- (2) リズム，旋律，強弱を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚した
ことと感受したこととの関わりについて考えるとともに，曲や演奏に対する評価とその根拠につ
いて考え，音楽のよさや美しさを味わって聴く。 〈思考力，判断力，表現力等〉
- (3) リズム，旋律，強弱によって生み出される雰囲気や表情などの変化に関心をもち，音楽活動を楽し
しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに，音楽に対する感性を豊かにす
る。 〈学びに向かう力，人間性等〉

4 教材について

(1) 教材および教材選択の理由

○「25の練習曲 作品100より第25曲 乗馬」作曲：F.ブルクミュラー

- ・曲想の変化に富み、音楽を形づくっている要素の働きも場面ごとに大きくことなることから、曲想と音楽の構造との関わりを理解し、根拠をもち曲に対する評価について自分なりに考えるきっかけとなる。また、知覚・感受したことを共有し、音楽のよさや美しさを味わわせていく。

5 題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規準	知 曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。	思 リズム，旋律，強弱を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに，曲や演奏に対する評価とその根拠について考え，音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	態 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
1時	知 〈ワークシート1〉 ↓	↓	↓
2時	↓	思 〈観察・ワークシート〉	態 〈観察・ワークシート〉

6 題材の指導計画と評価計画(全4時間扱い)

時	◆ねらい ○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点☆評価規準と評価方法 ★ <u>学校研究とのかかわり【手立て】</u>
〈第1次〉◆曲想と音楽の構造との関わりを理解する。		
1 本 時	<p>○曲想に関心を持ち、曲の雰囲気をつかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体を通して聴き、曲想を感じ取る。 ・曲想の移り変わりと音楽の構造の変化を考える。 ・「この曲のここが好き(自分の視点)」をワークシートに書き込み、特に注目する部分とその部分の曲想と関わる音楽を形づくっている要素(仮説)を考える。 <p>○自分の視点をもとに、部分ごとにリズム、旋律、強弱を知覚・感受する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットで音楽を聴きながら知覚したことと、感受したことをワークシートで線を結ぶ。 ・自分の選んだ音楽を形づくっている要素と同じ仲間とグループを作り、知覚・感受したこととの関わりについて考え、音楽を形づくっている要素の働きを正しく知覚させる。 <p>○曲想と音楽の構造の関わりを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人グループで自分の視点で知覚・感受し、曲想と音楽の構造との関わりについて考えたことを、部分ごとの音楽と楽譜を用いて説明し合う。 ・曲想と音楽の構造の関わりを確認しながら聴き、「この曲ここが好き(自分の視点)」を生み出した仮説を見直す。 	<p>○授業冒頭に曲を流し、生徒の教材との出合いを大切にさせるようにする。</p> <p>○曲想の移り変わりに注目させ、生徒の言葉からリズム、旋律、強弱などの特徴を引き出させるようにする。</p> <p>○曲全体の曲想が何によってもたらされているか考えさせるようにする。</p> <p>★<u>困難に向き合い、試行錯誤するなどの挑戦する学びの場面の設定【手立て1】</u></p> <p>○音楽を形づくっている要素の働きとして正しいか繰り返し聴かせて確認させるようにする。</p> <p>○自分の特に注目する部分と、他者の注目する部分での曲想と音楽を形づくっている要素との関わりに注目させるようにする。</p> <p>○部分ごとに音楽を繰り返し聴き、曲想と音楽の構造との関わりについてグループで考えさせられるようにする。</p> <p>○知覚・感受の関わりについて考え、仮説が正しかったか振り返りをさせるようにする。 ☆<u>知</u>：観察・ワークシート</p>
〈第2次〉◆曲想と音楽の構造の関わりを根拠にしなが、音楽のよさや美しさを味わって聴く。		
2	<p>○曲想と音楽の構造との関わりを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・線で結んだ知覚・感受の関わりについて確認するとともに自分の視点を振り返り、音楽のよさについて考える。 ・自分の選んだ音楽を形づくっている要素と同じ仲間とグループを作り、知覚・感受したこととの関わりについて確認し、自分の視点から考えた音楽のよさを伝え合う。 <p>○音楽のよさや美しさを味わって聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本楽曲の魅力について後輩に伝える紹介文を書く。曲想と音楽の構造との関わりと関連付けながら、自分なりの考えをワークシートに書く。(批評文) ・グループで紹介文を発表し合い、音楽のよさ・共通点をまとめる。 <p>○題材のまとめと振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造との関わりを踏まえ、本題材の学習したことや気づいたことをまとめる。 	<p>○前時の振り返りをもとに、仮説と知覚・感受の関わりについて考えながら聴かせるようにする。</p> <p>○音楽のよさについて伝え合いながら、どのように音楽の構造との関わりを考えさせるようにする。</p> <p>★<u>教師や仲間との協働的な学びの充実の手立て【手立て2】</u></p> <p>○音楽を聴きながら自分なりの考えを書かせるようにする。</p> <p>○特に注目する部分について、音源と言葉で説明させるようにする。 ☆<u>思</u>：観察・ワークシート</p> <p>○次の学習にどのように生かしていくか、考えさせるようにする。 ☆<u>態</u>：観察・ワークシート</p>

7 本時の学習活動（1/2）

(1) 本時の目標

- ・曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。 〈知識〉
- ・リズム，旋律，強弱を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに，曲や演奏に対する評価とその根拠について考える。 〈思考力，判断力，表現力等〉

(2) 展開

○学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法 ★学校研究とのかかわり【手立て】
<p>○曲想に関心をもち，曲の雰囲気を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体を通して聴き，曲想を感じ取る。(個・ペア) ・曲想の移り変わりやと旋律の変化を考える。 ・タブレットで音楽を聴きながらで旋律の変化を捉え，曲想の移り変わりを感ずる。(ペア) ・旋律のまとめりごとに，アルファベットを振り分類する。 ・「この曲のここが好き(自分の視点)」をワークシートに書き込み，特に注目する部分とその部分の曲想と関わる音楽を形づくっている要素(仮説)を考える。(個) <p>○自分の視点をもとに，部分ごとにリズム，旋律，強弱を知覚・感受する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットで音楽を聴きながら知覚したことと，感受したことをワークシートで線を結ぶ。(個) ・自分の選んだ音楽を形づくっている要素と同じ仲間とグループを作り，知覚・感受したこととの関わりについて考え，正しく音楽を形づくっている要素の働きを知覚させる。(グループ) <p>○曲想と音楽の構造の関わりを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本4人グループで自分の視点で知覚・感受し，曲想と音楽の構造との関わりについて考えたことを，部分ごとの音楽と楽譜を用いて説明し合う。 ・曲想と音楽の構造の関わりを確認しながら聴き，「この曲ここが好き(自分の視点)」を生み出した仮説を見直す。 	<p>○音楽の授業に切り替えさせる。</p> <p>○曲想を表す言葉をヒントに，情景を思い浮かばせながら聴かせるようにする。</p> <p>○曲想の移り変わりに注目させ，生徒の言葉からリズム，旋律，強弱などの特徴を引き出させるようにする。</p> <p>○ペアで楽譜を追いながらタブレットで曲全体の曲想が何によってもたらされているか考えさせるようにする。</p> <p>★<u>困難に向き合い，試行錯誤するなどの挑戦する学びの場面の設定</u> 【手立て1】</p> <p>○「この曲のここが好き(自分の視点，～な感じがするところ)」を記入させたうえで，その根拠となる音楽を形づくっている要素の働きとして正しいか繰り返し聴かせるようにする。</p> <p>○自分の特に注目する部分と，他者の注目する部分での曲想と音楽を形づくっている要素との関わりについて注目させるようにする。</p> <p>○部分ごとに音楽を繰り返し聴き，曲想と音楽の構造との関わりについてグループで考えさせられるようにする。</p> <p>○知覚・感受の関わりについて考え，仮説が正しかったか振り返りをさせるようにする。</p> <p>☆曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。 (知：観察・ワークシート)</p>

8 備考 在籍生徒数 男子 18 名 女子 18 名 計 36 名